

基本構想素案・新しい中野をつくる10か年計画検討素材(No.5)
に係る地域意見交換会等の実施状況について

基本構想素案・新しい中野をつくる10か年計画検討素材(No.5)に係る地域意見交換会等の実施状況について下記のとおりまとめたので報告する。

記

1. 地域意見交換会等の実施状況について

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 開催回数 | 17回 |
| (2) 参加者数 | 163人 |
| (3) 会場 | 全地域センター・商工会館 |
| (4) 主な意見・質問 | 別紙のとおり |

元中野区基本構想審議会委員及び基本構想を描く区民ワークショップ参加者を対象とする
意見交換会1回を含む

基本構想(素案)等区民意見交換会で出された主な質問・意見とその回答

基本構想全般

番号	質問・意見	回答
1	基本構想・10か年計画ができれば、後は実行するだけとなり、区長は何をするのか。	計画をきちんと実行するために、区長は総合調整を行う。また、計画は状況の変化に合わせて見直していく必要もあり、実行にあたっては条例や予算の審議という形で議会の判断も必要となる。
2	基本構想の策定で、多くの区民が参加したとしているが、そのように言えるのか。	今回の基本構想の改定では、審議会の基に区民140名余りのワークショップを設けて、1年間検討した結果を審議会に提案している。審議会から答申を受け、区として検討している状況である。区では、これまで4回にわたり、検討状況に応じて、区民との意見交換会を開催し、
3	基本構想は抽象的なので、具体的にどうなるのかわからない。区はどこまでやって、その他は自己責任というように、具体的に書いてほしい。	これまで多くの区民の方にワークショップなどに参加していただきながら、どういうまちにしていきたいかといういうことを話し合っ形にしてきた。より具体的な取り組みは基本構想の議決後につくる10か年計画の中で示していきたいと考
4	どこの自治体のものかわからないものといわれるが、我々はワークショップに参加して、自助・共助・公助といったことを話し合ってきた。後は、文章の書き方の問題であると思う。	東京23区は似たような環境にあるので、共通する点は多くある。区民の皆さんが望む姿があれば、さらに付け加えていきたい。
5	現在の基本構想と新しい基本構想の違いがわからない。対比表をつくって欲しい。現在の基本構想に基づいて20年以上区政を進めてきたわけであり、その到達点と功罪について総括すべきではないか。	対比表を作ることは考えていない。区は、基本構想に基づき様々な計画を作り区政を進めてきた。到達点の確認や総括については、予算や決算、行政評価等で行っている。
6	基本構想では、自分のことは自分でということが色濃く出ている。しかし、高齢者にとっては、難しいこともあると思う。	行政の責任でやって行かなければならないところは、しっかりやっていく。サービスの実施は民間に任せるとしても、権利擁護や制度の維持などは行政の仕事で
7	区民参加の推進というが、意見交換会の参加者がこのように少ない状況で大丈夫か。地域に委ねるものばかりで区は手を引くという印象を受ける。区はどのように関わるのか。	今回の意見交換会は4回目で基本構想については最後となる。全体的に参加者は前回より少ないが、パブリックコメントでも意見はいただいている。区民生活の将来像を主体に書いてあるため区の取り組みが分かりにくくなっているかもしれないが、サービスの質の維持、監視などの役割は、区が果たしていく。
8	新しい基本構想を作るということは、区として危機感があるためと思うが、それが区民に伝わっていないと思う。この素案は、中野区に限らずどこでも通用するようなものであり、突っ込んだ問題が見えてこない。財源もどこにどれだけ配分するかを数字で示して欲しい。	財源的な裏付けをもつことが必要と考えており、10か年計画の中で具体的に示していきたい。

9	職員の意識改革についてもう少し、書くべきである。また、中野区は、公助をどうするのかはっきりさせてほしい。	職員の意識改革については、これからも取り組んでいきたい。区は、基本構想にそって必要なことはきちんと仕事をして
10	現行基本構想は、謳い文句だけになっているが、新しい基本構想は、第5章に行財政のきちんとした基本原則がある。この内容については、評価し支持していきたい。	財政改革を行いながら、全体の事業費については、10か年計画の中で明らかにしていきたい。
11	将来像を見ると、10年先はずばらしいまちになる。ただ、どうやってそこに到達するかが見えないのが残念。	資料の中では10か年計画で検討している事業もいくつか掲げているが、今後さらに詳細を詰めて具体的に示していきたい
12	NO.3の時点から見ているが、内容がすっきりまとまってきた。労力をかけて意見交換会を開催していることも評価する。ただ、意見交換会の意見がどう検討されてきたのかわかりにくい。	今までの意見交換会の結果については、ホームページで発表しているが、結果を印刷して地域センター窓口に置くなどの工夫もしていきたい。
13	新しい基本構想には反対である。区が行っていることは、区立保育園の民営化、非常勤職員の解雇等、豊かな地域を築くことの理念に反している。新しい基本構想を読むと様々なことをなくすことばかりで、その考えの中では、ビルを造ることがある。行政の理念も効率性と採算性が貫かれている。区民も主権者から顧客になっている。	社会情勢が変わっていく中で、自治体のあり方を見極めてきた。今までは、行政でしかできないことも様々な分野で民間ができるようになった。様々なやり方で公共サービスが出来る時代になった。民営化、委託化は後退ではなく、前進の取り組みである。行政は、コーディネータ役だけに徹するのではなく、民間サービスのチェック、監視等の取り組みにより区民
14	基本構想と計画体系の図で例示されている個別計画は、区民と区が長い間かけて策定してきたものだ。財政の効率のため基本構想を変え、その上まだ計画途中の個別計画も変えるのか。	個別計画は、基本構想の改定や現在の状況でそれぞれ必要な部分を見直し、必要な改正を行っていく。例えば、保健福祉の分野では、介護保険制度、障害者福祉のしくみが大きく見直されようとしており、見直しで改正する部分も必要となっ

前文・基本理念について

番号	質問・意見	回答
1	区政はすべて区民の「自己決定・自己責任」に任せるというのではなく、区民がそうできるように指導・援助していくのが区の役割ではないか。	区民のみなさんが自らのことは自ら決定し、責任をもって主体的に行動できるよう行政としても適切な支援をしていきます。また、公的な援助が必要な方々への対応もしっかり行っていきます。
2	基本構想の文言はこれでよい。あとは、その時代の状況によって適切に解釈すれば足りる。大切なのは、区民にとってよい方向をめざすということ。(意見)	
3	「私たちは、地球市民の一員として～環境を守り再生させ、次世代の人々へ受け渡して生きます」の理念を一番強く意識して生活して欲しい。区民一人ひとりが環境に配慮した生活を送るように啓発や取組みを行って欲しい。(意見)	

4	<p>新しい基本構想は、住民をしばるものであってはならない。基本理念は、私たちは、一人ひとりが、みずから決定し、行動しという表現は、そのようにしろというような感じで押し付けがましい。</p>	<p>基本構想は、様々な人達の参加で検討を行ってきた。140人以上の参加があった区民ワークショップの第4分野では、私たちは自分達で考え、決め、行動し、豊かな社会を築く旨の提案があった。いきなり区から出した考えではない。豊かな地域社会は、参加し、行動して作り上げ</p>
---	---	--

中野のまちの将来像について 〔第 領域 持続可能な活力あるまちづくり〕

番号	質問・意見	回答
1	<p>仮設住宅の予測はしてあるのか。広域避難場所に指定されている中野駅周辺には、どれくらい建設するのか。</p>	<p>仮設住宅は、災害のために住宅が全焼・全壊・流出し、自己の資金で建築できない被災者のために、一時収容を目的として建設するものであり、具体的な数の想定はしていないが、地域防災計画では建物の全壊が465棟、焼失が18,180棟と想定している。建設用地は公園等の19か所を予定しているが、中野駅周辺地区は入っ</p>
2	<p>小田急や東急の立体化は進んでいるのに、なぜ西武新宿線は進まないのか。どのような計画でやるのかをはっきりさせないと進まないと思う。区の努力不足もあると思う。</p>	<p>区としては、区内各団体とともに西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟を結成し、推進している。また、東京都も都内の開かずの踏み切り対策の計画を策定し、西武新宿線も計画に入っている。この計画路線は、東京都が施行することになっており、早急に進めてもらうため区として沿線のまちづくり計画の策定を進</p>
3	<p>木造住宅が密集した地域が多いと現状分析しているが、以前にあるポイントから半径150mの範囲を調べたところ、昭和30～40年代の建物が密集して危険な箇所が2地区あり、だれも住んでいない家も3件あった。現状を調査してあるのか。</p>	<p>木造住宅密集対策としては、これまで道路の拡幅や共同化などを進めてきたが、これらは何十年もかかる事業である。これも必要であるが、いつ起きるかもしれない地震対策としては、住宅の耐震補強や家具の転倒防止が重要と認識している。空家等の住宅については、消防署が調べたデータがある。町会でも防犯や防火の取り組みを進めてもらっており、これらを組み合わせる取り組みを進めていく</p>
4	<p>ごみの問題で、燃えるごみは家庭で工夫すれば減らせるが、燃えないごみはどうしようもない。製造業者がプラスチックを使わないようにするとかの対策は採れないのか。</p>	<p>ごみの減量を進め、10年間でごみの量を半分にしていきたい。プラスチック容器については、できるだけ買わない、分別収集を進めることを働きかけている。容器リサイクル法における製造業者の負担の見直しを国に要望している。</p>
5	<p>南中野は狭あい道路が多いが、建てたときに下がっても元に戻っているところがある。すみ切りもされていない場所もある。どう指導しているのか。</p>	<p>今後とも適切に指導していかなければならないと考えている。</p>
6	<p>中野区の特徴を出す方策として、警大跡地にドッグランができる公園を整備し、まわりには動物病院を整備する。綱吉の時代にはお困りがあった場所なので、動物にやさしいまちになる。また、中野駅北口広場には太鼓をたたける場所として人が集まっていると聞く。そうしたものを生かせない</p>	<p>ご意見として承る。ただ、警大跡地は国の土地なので、すべて区の思い通りにはならない。サンプラザも含め、にぎわいのあるまちにしていくということは考えている。</p>

7	この地域は消防車が入れない地域で、自分たちで何とかしろと言われている。早急にこのようなことがないようにしてほしい。防災訓練は火災の訓練が中心になっている。昨今の災害に対応した訓練にしてもら	道路については、すぐに広げることは困難であるが、広げる努力をしていきたい。防災については、ハード・ソフトの両面から検討を行っており、訓練も地域の要望に応じていきたい。
8	交通の問題は、区内だけでなく周辺の区との関連を考えることが必要である。	交通では西武新宿線の問題など、中野区だけでは解決できないことがあり、近隣区と連携して進めていきたい。
9	NGOを立ち上げ屋上緑化の普及に取り組んでいるが、杉並区では学校の校庭や屋上の緑化や民間への支援を行っている。中野区では、民間での緑化の推進とあるが具体的な取り組みは何か。また、区立施設の取り組みはあるのか。	屋上緑化や壁面緑化の推進に向け、補助制度の事業化について検討している。学校では、二中と沼袋小で屋上緑化を進めているが、他校へも拡大していきたい。校庭の芝生化については、来年度から進めていきたい。
10	- 3 安全で快適な都市基盤が整備されたまちの将来像に「景観に配慮した」の記述が追加されて安心した。(意見)	
11	建替え時の建築確認の際、地域の景観に配慮したまちづくりを進めるために、法基準以上の規制を掛けるよう働きかけて欲しい。	個人の権利に係わる法規制の上乗せは難しいが、景観に配慮したまちづくりのために地区計画を検討するなど、行政として働きかけることは大切である。
12	区民の自主的活動で、若い人向けに店の起こし方を勉強する活動をしていた。このとき区の担当部・課が関わり、後ろ盾となり信用を得られて良かった。区民と行政の新しい関わりを構築してほしい。(意見)	
13	屋上緑化が緑被率に関係すると考えるのはどうか。個々の建物の話であり、地表のみどりを増やすべき。	屋上緑化は、都市のヒートアイランド現象の対策にも有効とされている。
14	神戸の震災から10年、新潟の地震から数ヶ月経過している。地震はいつ発生するのか分からない。区は、地震に対してどのような施策を持っているのか。地域で組織をきちんと整備すべきである。	阪神大震災では、建物の倒壊、家具の転倒などで8割の方がなくなっている。耐震相談、耐震診断、耐震補強工事の助成、家具転倒防止器具取り付け助成を行っている。災害時には、自助、共助が大切である。地域ごとに組織されている防災会の育成に取り組んでいるが、防災意識の啓発、地域の組織づくりに力をさらに
15	ごみゼロ都市をめざすとあるが、生ごみはどのように考えているのか。	生ごみについてモリサイクルは必要である。コンポストを利用したり、バイオ技術による熱資源化を考えたりしていきたい。京都議定書の関係もあり、ここ数年で飛躍的に伸びる分野だと思うので、期待し
16	災害時は火災が怖い。区全体ではパニックも起こるだろう。どこの地域でも同じように対応できるよう、公園には救援物資やトイレ、給水施設を整えてほしい。	安全な場所を確保し、必要な物資を整えるのはご指摘のとおり。ただ、備蓄には限りもあるため、広域的な協力関係も考えているところである。避難の際は、一時集合場所から学校などの避難所へ、そして広域避難場所へという順序になるが、学校に避難している人だけでなく、自宅にいる人にも救援物資は届くようにして不公平がないようにする。50か所の避難場所では、避難所運営会議を作って災害時の利用について細かく決めている。学校再編にあたってもそう

17	産業・商店街の発展が大切。コミュニティの核として商店街を活かすために何ができるのか。	空き店舗活用のほか、コミュニティビジネスなど、地域に身近な事業の支援を検討している。商店街の希望を把握しながら、産業活性化のための検討を続けてい
18	警大跡地は、多くの人々が防災広場にしてほしいと望んでいる。現地では、いつの間にか大きな木も伐採されているが、どういうわけか。	建物を壊したが、最近木を伐採したとは聞いていない。みどりと防災の広場は区としても作っていきたいが、あの場所をすべて広場にしたら安全ということにはならない。輻射熱の問題もある。広域避難場所として避難してきた人々を受け止められるスペースを確保していき
19	警察大学校跡地は防災の拠点とすべき。防災が区民にとって一番大切だ。	警大跡地については、ほかに「いろいろな都市機能を導入して活性化の引き金に」というご意見も寄せられている。全部をビルにしたり広場にするのではなく、総体としてすべきことを検討したい。防災の拠点というお気持ちはわかるが、大きな広場だけでなく、周りの不燃化なども不可欠になってくる。10万人弱の人が避難できる場所を確保するとともに、一方であの立地を活用して、住宅や産業・文教施設など、まちの活性化のために利
20	商店街が活発化するよう、何か具体的方策を考えてほしい。	具体的な施策はまだ不十分と考えている。さらに検討を行い、10か年計画の中で示していきたい。
21	環境施策については、区民が基金を積み立ててそれを柔軟に使っていきけるようなしくみは考えられないか。	公共施設に太陽光発電装置など自然エネルギーの導入促進等を行い、普及啓発していきたい。環境施策に配慮する様々な取り組みをさらに検討していきたい。
22	昔の大和町は暖かいコミュニティのあるまちだった。商店街が衰退し、コミュニティの凋落は目に余る。区はどう考えているのか。	商店街は地域ごとに特色がある。地域の状況にあわせてうまく活性化していくのは難しいところだが、今後さらに検討していきたい。 空き店舗活用事業は行なっているが、効果を上げるため、組織的に取り組んでいて、適切な業種・店舗が導入可能と思われる商店街を選定して、条件を設けて実施している。どこでも対象になるという形ではない。たとえば個人展開をし
23	警察大学校跡地は、当初、防災公園を作る計画であった。なぜそれがなくなるのか。民間による開発は、区の財源の持ち出しは少なくてもよいかもしれないが、区民にとって貴重な財産が失われてしまう。	警察大学校跡地については、中野駅周辺のまちづくりの中で、検討を行っているところである。
24	吉祥寺駅前、アーケードを歩く人が多い。中野のアーケードも、吉祥寺のように後背地に住む住民が通りぬけるようなまちにすれば活気づくのではないか。	吉祥寺駅前、うまくいった例だと思う。大規模店舗のような魅力あるポイントと商店街の共存共栄が大切だと認識している。
25	中野駅の西口をつくり、サンブラザや広場を開発して人が集まるような魅力を作り出す必要がある。	現在、中野駅周辺地区まちづくり計画を検討中である。駅からの動線についても検討している。
26	西武線の立体交差化には、みんなが期待と希望を持っている。ぜひ実現を。まちでも、勉強会を続けている。	西武線沿線のまちづくりを、地域に参加してもらって考えていき、ぜひ立体交差化を実現していきたい。

27	「多様で良質な住宅の誘導」とあるように、ファミリー向け住宅は確かに必要。以前、近所にワンルームマンション建築計画があったときに、「ファミリータイプを増やす」ことを陳情して採択されたことがあるが、その後この件がどうなったのかわからない。	当該マンションの管理上の問題は、指導要綱で規制しており守られている。住戸の割合については、まちづくりの一環として条例化できないかについて検討しているところである。敷地の最小限度を決めるだけではよいまちづくりはできないので、どういう方向に持っていくべきか、きちんと条例などによって決めていきたい。
28	野方は店がたくさんあって活気がある。また、練馬駅周辺もバスターミナルが便利になり利用しやすい。中野駅周辺もこうなるとよい。	練馬駅周辺は、20年くらい前から計画化して取り組んだ。大いに参考としたい。
29	中野のまちに、あまり魅力を感じない。中野体育館前の並木道はよいと思うが、あれは人が少ないからよいので、活性化しているとはいえない。活性化することが本当によいのだろうか。	まちの魅力はにぎわいだけではない。基本構想でも「多彩なまちの魅力」をめざして将来像を描いている。以前、中野の「まちづくり百選」を募集したところ、区民のみなさんからいろいろな提案があった。まちの魅力はさまざまなので、よい部分を伸ばすまちづくりを進めていきたい。まち全体の構成を考えながら、地域の魅
30	資源回収は、町会や行政、業者がそれぞれに行なうのではなく、総合的な視点に立って考える必要があるのではないか。	ご意見を参考にしたい。
31	第 領域で、公園の整備が示されているが、公園に関する指標がないのが残念である。公園の数を増やす指標を入れてぜひほしい。また、高齢者が公園で体操する遊具を設ける等、公園をもっと生活に密着した場とし	公園面積を増やすことを考えているが、指標よりも事業計画で示していきたい。区民参加を得ながら公園の管理をしていくことを考えている。健康器具を設置している公園もある。指導者の派遣なども考えてきたい。

〔 第 領域 自立してともに成長する人づくり 〕

番号	質問・意見	回答
1	多様な家庭を認めているのに、家庭内で男女の性別役割分担を否定している。性別役割分担があっても良いのでは。	固定的な役割分担で、人生の選択や生き方が狭まらないようにすること。ただし、夫婦でお互いの選択による役割分担は、自由であり、その結果までを否定す
2	幼稚園などでは障害児が増えている。小学校へ入学できるか不安な子ども多いが、保健所やアポロ園と連携したいが、なかなか時間が取れていない。年1回の保幼小だけではなく、ネットワークを広げて欲しい。	幼稚園における障害児教育は、青少年問題協議会でもテーマとして出されている。アポロ園の連携など課題があるが、保幼小などの専門的な、強い連携を考えていきたい。
3	子どもを増やそうとしているのに、保育サービスを充実して仕事の支援をすることは、子どもを産み育てる家庭環境の整備と方向が違わないか。子育ての楽しさやを感じられるようにして欲しい。	子育ては、楽しさや喜びなど、人間としての達成感があるが一方で、夫婦だけの子育てだと、その重みに負けてしまう家庭もある。2人で子育てを担うには大変な場面があり、支援が必要とされている。保育サービスでも就労を要件としない一時保育など色々な手伝いを用意した
4	子どもが減ったのではなく、行政が子どもを減らしたと思っている。子どもが増えるような環境を整えるべきである。	日本全体で子どもは減っている。子どもの数を増やしていくことは課題であると認識している。

5	学校の再編では、子どもの安全を考えると、幹線道路をまたぐ通学路は良くない。	現在も幹線道路や踏切等を考慮した通学路を考えているが、全てを解決するのは困難であり、実際に幹線道路の横断がある。再編にあたっては、地域と学校による統合委員会などを設け検討していき
6	「幼保一元化の推進」とは、新しい施設で行うのか、既存の幼稚園や保育園で行うのか教えて欲しい。また、区立幼稚園はどうなるのか。	幼保一元化には、保育園での幼児教育の充実や幼稚園の預かり保育の実施など、色々な方法がある。中野区の幼児が、幼稚園や保育園など施設の区別なく、同じような幼児教育や保育サービスが受けられるよう研究を進めていく。区立幼稚園については、子どもが増え、私立幼稚園に入園できないため区立幼稚園を設置してきた経緯がある。しかし、子どもの数が減少し、現在は児童の定員が私立幼稚園で賄われる状況となっており当初の使命を終えていると思う。区立幼稚園の配置については、今後策定する10か年計
7	国や都から言われたから、その範囲でやるのではなく、区として必要なことを訴えて、国や都を変えて行くような姿勢を出して欲しい。	ご意見の通り、区として住民の声を反映できる取組みを続け、自治体としての意見を発信していきたい。
8	次世代育成支援行動計画で、障害児への記述があるが、ひとくくりでいいのか。障害にはいろいろなレベルがあるはず。	障害児のレベルがさまざまな事はそのとおりであり、学校や保育園、児童館などで、それぞれの子に応じた対応をしてい
9	「一貫した療育支援が受けられる地域全体の取組みが整備され」とあるが、保育園や幼稚園、学校の連携をどう支援するのか。	(仮称)総合公共サービスセンターを区内に4か所程度設置して、地域の子育て拠点としたい。地域全体で子育てをサポートできるように、区はきちんと関係機関の連携を作りながら活動を支援する
10	病後時保育について、現在1か所2名定員だが、今後どうするのか。	病気回復期の子を預かるサービスだが、現在は区の北側に1か所であり、今後は地域バランスや施設数の見直しなどを検討
11	子どもは、中野で生まれなくてもよそから来ればよしとするのか。また、いわゆるシングルマザーへの取組みはどうするのか。	結婚の有無によらず、妊娠した人の健やかな出産・育児への支援をしている。中野区で、きちんと子どもを産み育てられることが大切であり、行政以外にも地域で温かく見守りことも進めて行きたい。
12	「子どもの権利条約」について、条約に基づいて条例等制定しているのか。啓発活動は、どのように行うのか。	条例は制定していない。子どもの権利条約については、あらゆる状況を想定したものもあり、日本にそのままあてはまるものではない。ただし、虐待への取組みなど、子どもの人格をきちんと尊重していくことや、子どもの意見発表の場や参画を大切にしていきたい。
13	児童館は、地域の健全育成の拠点としているが、児童館の機能や配置の見直しを行い再編されると、地域が広がるなど施設が遠くなり、地域の拠点となれるのか。	計画は、10年後の方向を示している。児童館のエリアは広がるが、今後は、遊びの拠点だけではなく、悩みのある家庭への支援や地域活動者の育成機能なども強化していきたい。
14	延長保育の拡大により、夕食も保育園で食べると、家に居る時間が少なくなり、家庭内での親子の関係が希薄になるのではないか。親側の都合ではないか。	延長保育がないと仕事ができない人もいる。子育ての責任は家庭にあるが、保育のニーズがあれば、対応する。

15	記述されている内容は、全て区が援助するよう見える。子育てをするのは、親である。子どもは親が育てるものだとすることを基本にしてほしい。	そのとおりである。子育ての責任は、親や家庭であることをふまえるべきである。その上で将来を担う子どもを地域、行政も子育てを支援していくということが基本的な考えである。
16	区は、少子化についてどのように考えているのか。以前35万人いた人口は、現在30万人になっている。子育て世代は、他区へ出て行く状況がある。このような状況になったのはなぜか。	未婚、晩婚、晩産化、子育てに関する意識や結婚、家庭に関する意識が変わってきたということもある。また、中野区は、一人世帯の比率が高く、一人で住んでいる方が多い。様々な要因が影響している。
17	地域で育成活動を行っているが、あまりにも民間委託、ボランティアに期待しすぎている。あれもこれも行わなければならないのかという感じがする。	子育て支援の様々な取り組みを行っている地域で幅広い育成活動が展開され、家庭や学校と連携して様々な取り組みが行われることは、子どもの健全育成の上で重要なことである。地域団体やボランティアが全て担うことをお願いしているわけではない。区は、地域で活動している皆さんと一緒に考え、健全育成活動の支援に取り組んでいきたいという考えである。
18	少子化対策は、子どもが生まれたから支援するのではなく、安心して子どもを産める環境が大切である。区民に余裕がないのが問題である。	少子化対策は、国を挙げての取組みであり、国や都、自治体をはじめ企業を含めた対策作りを進めている。区としても、育児時間の確保など事業所へ働きかけて
19	区は、子育て施策の予算を、保育園など施設に使うのか、補助金などを支給することに重点を置くのか。	働く人にとっては、保育所サービスを提供し、安心して就労できるよう支援を行い、子育て世帯の負担を軽減するため、児童手当や医療費助成などを行っている。どちらか一方ではなく、必要に応じ施策を組み合わせることが重要である。
20	子どもは、3歳まで母親が密着して育てるべきとする論があるが、区は、子どもが生まれた後の母親の役割をどう考えるのか。	母親の役割のみではなく、子育ての責任は家庭にある。また、子どもは社会の宝でもあり地域で子育てを支えあうことも
21	家庭の責任をうたっていることは、良いことである。戦後個人が強調されすぎたと思う。家庭では、男女の性差別があるのではなく、役割分業があると思う。(意見)	
22	他国では、子育て時間をとらせるところがある。国の動きはどうか。	国は、育児休業や介護休業について、法律の改正により、子育て支援など事業主への義務付けを強化している。次世代育成支援行動計画でも男女が平等に子育ての役割を担えるよう事業所への働きかけ
23	社会を構成する最小単位である家庭を、自ら考え行動できるようにすることを重視していくべき。うちでは毎週月曜日に「家族の夕べ」を設けて話し合いをした。そういう取り組みを進めてはどうか。	今までも「子育ては家庭が基本」というご意見をたくさんいただいている。家族の養育力向上は大切と考える。
24	子育てで一番困っていることは、住宅の問題である。せめて子育て世代が住宅に困らないようにしてほしい。	高齢者、障害者にとっても住宅問題は、重要な課題である。行政が子育て世代、全ての住宅を用意させるのは、現実的ではないが、民間の良好な住宅を誘導することは可能である。

25	区は、学校の統廃合計画で学校を減らし、図書館を減らすことを検討し、保育園の民営化を進めている。実際に区が行っていることは、基本構想で書かれていることと違うのではないか。	区立学校の児童生徒数は、ピーク時の1/3になり小規模化が進んでいる。クラス替えができない学校もいくつも出てきている。充実した学校教育の実現のため、児童生徒数は、一定の集団規模や学級数を確保することが必要である。中野の地域図書館は、蔵書数も少なく規模も小さい。新たな機能を必要であり、施設の建替えにあわせて数についても検討していく。保育園は、公立だけでなく、社会福祉法人等民間でも多く運営している。これからは、民間の力を活かしていきたい。保育の質のチェックや不利益の
26	子どもが少なくなったのは、中野区の住宅事情によるところが大きいのではないか。	少子化の傾向は、全国的な傾向である。住宅事情による要因も大きい。その他様々な要因がある。各分野での取り組みを行い、子どもを産み育てる環境を作ることが必要である。

〔第 領域 支えあい安心して暮らせるまち〕

番号	質問・意見	回答
1	公園内に介護予防や健康づくりのための器具を設置してはどうか。	健康づくりの器具は、区内の8公園に設置しているが、充実させていきたい。また、器具を置くだけでなく、地域の人材を募って指導員が出向くなどの工夫もし
2	自分が死ぬときには、介護保険にはかからず子どもに面倒を見てもらいたいと思っている。介護保険に頼っていると、保険料も大変になるだろう。できるだけ家族が面倒を見るようにすべきではないか。	長期間の介護となると家族の負担も大変になることから、介護保険でサービスを提供するしくみとなったものである。介護サービスにも財源にも限度があるため、介護保険制度の見直しが考えられて
3	利用者が自身にあったサービスを主体的に選べる環境が整っているとあるが、本当に選択肢が用意されるのか。	民間やNPO等による質の高いサービスの提供が必要になると考えており、誘導策等について10か年計画の中で検討し
4	退職した元気高齢者について記載されているのは、よい。	退職した元気高齢者が今後増えていく中で、行政として取り組むべきことをきちんとやっていきたい。
5	少子化の原因の一つは、夜間も対応できる小児科の病院が少ないことにあると思う。深夜に急病になった時に、区内で対応できる病院がなかった。基本構想の中に、病院のことも記述して欲しい。	どのレベルの病院がどこにどれだけ必要かという計画は、東京都がつくっている。23区内では自区内になくても少し行けば対応できる病院があり、一区単位で作ることは考えられない。区内の小児救急は、区の委託で中野総合病院が夜10時まで対応しており、これは継続していきたい。警大跡地に警察病院ができるが、小児救急についても要望しているところ
6	健康づくりの推進については、ウォーキングが有効だと思うが、区内には安全に歩ける場所がない。鷲宮体育館のプールでも歩いている人がほとんどだ。安心して歩けるようにしてほしい。	ウォーキングが健康づくりに役立つというのはそのとおりである。現在でも桃園川緑道などがあり、まったくないというわけではないと思うが、今後何かできるかを考えていきたい。
7	高齢者は、自宅でずっと過ごしたいという選択もある。そのために元気でねっとをどう活かしていくのかの視点の発想もしてほ	人と人のつながりで支え合い出来ることも多い。元気でねっとの取り組みについては、さらに考えていきたい。

8	第 領域で住宅がふれられていない。老後の暮らし等、第 領域とは違う視点から住宅について記述していほしい。住み続けられるまちにするために、住まいの視点が第 領域に必要である。	地域で住み続けられるよう、介護保険・支援サービス基盤の整備を行い、小規模多機能型サービス拠点、グループホームを整えていく。また、高齢者、障害者等の施策を総合的にどう組み立てるかについては、10か年計画で示していき
---	--	--

〔第 領域 区民が発想し、区民が選択する新しい自治〕

番号	質問・意見	回答
1	附属機関が28もある。小さな区役所をめざし職員を減らしているが、附属機関がこれほど必要なのか。また、区議会議員も削減すべきではないか。	附属機関は法律や条例により、区政の諸課題に関し設置されているものである。議員の定数については、地方自治法で上限を定め定数は自治体の条例で定めることになっている。中野区の場合は46人が上限で、条例で42人としている。
2	以前の行財政5か年計画の地域説明で、なぜ中野区の財政が23区中最低の状況になったのか、何の反省もなく説明されていた。一例を挙げれば、4年間受講したことぶき大学の参加費が年間500円だったが、民間では何万円もかかるだろう。カリキュラムについても、受講者やOBの意見も聞かず、変わろうという姿勢がみられない。	ことぶき大学の運営については、前年度のうちにカリキュラムを作り、会場や講師の確保しなければならないなど、その年の受講生の意見を聞いていくことが困難な面もあるかとは思いますが、OBの皆さんの意見を聞いていく工夫はしていきたい。
3	地域団体活動の推進が、第 領域と第 領域に書かれているが、支援や活動の主体の違いがあるのか。	どちらも主体は区民であり、それぞれの活動に応じた支援をしていきたい。
4	職員の意識改革・資質の向上が必要ではないか。	ご指摘の通り、職員の意識改革・人材育成が肝要と考えている。
5	職員白書はどうなったのか。区は、組織や職員のあり方について、外部評価の結果などをもとに組み立てなおす必要があるのではないか。	職員白書は今年度中に発行し、区民のみなさんと情報を共有したい。当初は15年度中にまとめる予定だったが、資料の収集・課題整理に時間がかかっている。
6	区と町会のつながりがわかりにくい。区が町会に押し付けようとしている、という印象がある。行政は町会をどう位置づけ、どう分担しようとしているのか。	何でも区の仕事をやってもらおうというわけではないが、地域でできることはやっていただきたい。防災やごみゼロをめざすリサイクルなどは、地域を網羅している町会が担っていただきたい。国勢調査は区の仕事をやっていただいている形だが、町会以外に担い手は考えにくい。現実には、地域のことを動かしてもらおう活動は、町会が主になるとよいのではないか。そのためには、区がお願いすることはきちんと経費を払うとともに、町会のほか、NPOなどの団体活動として生かしながら、豊かな地域をつくるしく
7	第4領域で区民が発想し、実行すると記述があるが、区民参加の具体的な形が見えてこない。地域での話し合いについての形をはっきり出してほしい。	基本構想の検討をふまえ、発案の段階から評価に至るまで、区民の意見が反映できるしくみを(仮称)自治基本条例策定の中で検討している。

8	防災は、地域住民がどれだけ協力できるかが課題。区も、区民の防災組織への参加を奨励してほしい。	災害時は、まちの人の力がもっとも大切。新潟中越地震のときも救援物資の搬送に地域住民が協力した。まちの人たちがうまく力をあわせるために、行政も地域の支えあいづくりをめざしてあらゆる面で支援をしたい。 阪神淡路大震災のときにも、地域の連携が強い地域で救助率が高かった。実生活
9	今を良くした結果が、10年後につながると思うが、今後、区の職員数が減り、施設の委託化を進める計画で、10年後の姿が実現できるのか。	全国的にも、今のサービス全てを行政が直接行い続けることなどできなくなる。法人、NPOなど民間の力を生かすようになっていく。区施設の委託により、利用時間の延長や開催日数の増加などサービスの充実化を図っている。これからは、いろいろな知恵や力を出し合える社
10	長年マンションに住んできたが、商店街の人々が仕切っている町会からは「お客様」扱いされてきた。区は町会を事業主体としてみているようだが、それならマンション住民が作ったNPOでも代替できるのではないか。区の町会に対する考え方がわかりにくい。	町会も事業主体の1つと考えている。さまざまな形で多くの人々がまちで活動できることが望ましい。ただ、町会は地縁団体であり、メンバーの重複もなく、互いに解決できる問題を扱うことを趣旨とする団体である。区として、暮らしの中での結びつきを大事にしたい。マンションの自治会も、できるだけ町会に加入して一緒に参加していただくことをお願い

指標について

番号	質問・意見	回答
1	小さな公園が170ほどあるが、緑被率を上げるには公園は効果的だと思う。現実的な数値目標を立てたほうが良いのではない	公園面積については計画で事業量を示していきたい。
2	緑被率の調査は季節によって数値が変わってしまうので、調査時期を明示すべきである。(意見)	
3	指標の案は、アンケート等で区民の評価を受けることができるものが少ないと思う。区民がどのように評価に参加できるのかを示して欲しい。	指標の検証については、行政評価も活用していきたい。また、区民満足度調査も今後拡充していきたい。
4	指標の案に「ずっと住み続けたいと思う区民の割合」とあるが、中野は住民の異動が多く、ずっと前から学生や若いサラリーマンが多く住んでいる。住み続けるというよりも、ここに住んで良かったというまちとしての文化発信ができるまちでありたい。	
5	緑被率が16%とあるが、以前は9%といていたのではないか。	確かに以前は9%だったが、精緻な調査が可能になり、16%になった。
6	区内のNPO法人の認証数が87団体とあるが、どのような分野が多いのか。団体を増やしていくための戦略は何か。	法人格を持つことで、社会的な責任や継続的で安定的な活動が期待される。NPO法人は、ここ2年ぐらいで急に増えているが、福祉の分野が多い。今後は子育てや文化、環境の分野を増やしていきたい。組織作りのノウハウや活動のヒントになるような情報提供、活動に対する助

7	指標は、項目によって数値に反映されるのが2年、3年とかかるものもある。どのように評価するのか。	指標は、5年をめぐりに見直しを行う。外部評価を含めて区民の皆さんの意見を聞き、結果を示す場を設けていきたい。区民に分かりやすい指標を設定することが
---	---	---

10か年計画について

番号	質問・意見	回答
1	NO. 5は外来語の表記が多すぎる。杉並区では広報誌で外来語をなくす取り組みをしたが評判が良かった。見直して欲しい。文字も大きくして欲しい。	今後十分注意していきたい。どうしても使わなければならないものについては、注釈を付けるなど配慮していく。
2	学校の再編計画で、前期に廃止となる学校の跡地利用はどう考えているのか。	学校の跡地利用については、これまでの検討素材で公園、(仮称)総合公共サービスセンター、民間の福祉施設などで活用するとしてきたが、10か年計画で示
3	区長の姿勢として、ボトムアップされたものを最終的に区長が決めるという姿が望ましく、また町会等の意見を十分に聞いて決めていくことが必要と思うが、区長の認識はどうか。	基本構想策定過程での職員参加については、平成14年度に職員プロジェクトチームを作り、希望者は誰でも参加できるようにしたほか、その後も担当レベルでの検討など参加の機会を設けている。区民の参加については、検討素材NO. 2からこの素案まで、地域センター単位での意見交換会や各団体への説明など、でき
4	地域センターを4つのブロックに分けるとのことだが、住民に近いところに窓口があるべきと思う。現在の地域センターのどこに弊害があると考えているのか。	今後の区政運営においては、事務の効率化は避けてとおれず、地域センターの窓口についても見直さざるを得ない。コンビニエンスストアやインターネットなどの活用を図っていきたい。職員も、2,000人体制をめざす中でこのまま職員を配置するのはむずかしい。(仮称)区民活動センターに転換し、区民の意思に基づいて運営できるようにしていきたい。
5	学校、図書館、保育園などの施設は住民に身近なところにあるべきである。これまでの中野の特性に十分配慮して欲しい。	施設の数について、今までの数を維持することはできないと考えている。何がどれだけ必要なのかを、区民と一緒に考えていきたい。学校については、15年間で小学校21校、中学校9校にしていきたい。図書館については何館にするか決めていない。保育園については数は減らさず民
6	東中野4・5丁目は新宿区に入り込んでいるように位置しており、中野区だけで避難所を考えるより、新宿区も含めて考えたほうが、近いところに避難できる。他区との連携はできないか。	避難場所の指定についていえば、まずは近くの学校等に避難していただき、そのあと広域避難所に行っていただく。広域避難場所は東京都が指定するので、この地域は新宿中央公園が指定されている。震災時被害を最小限におさえるためには、日ごろからの備えが大切。区としても近隣区と協力をしながら防災対策を進
7	保育園と幼稚園の一元化だけでなく、高齢者もいっしょにするというようにはならないか。	高齢者と乳幼児のふれあいというのはいい面もある。しかし、施設のあり方として考えると難しい面もある。

8	バスの停留所が同じ方向に行くのに中野駅の南北に分かれていたり、違う方向に行くのに同じところにあたりして使いづらい。	現在のバス発着所は、同一方面でもバス会社が違うことによって中野駅の北口と南口に分れ、利用しづらい面はあるかもしれない。中野駅周辺まちづくりの検討の中で考えていきたい。
9	千光前通りを通り抜ける車で、安全に歩けない。どうにかならないか。	確かに歩きにくい面もある。歩道を両側につけるなど工夫をしているが、こう配があり歩きにくい面もある。今後、周辺の土地利用の見直しなどの機会をとらえ
10	計画は作りっぱなしにしないでほしい。そのために、できなかつたらどの部署がどう責任をとるのかを明記できないか。	10か年計画には数値目標を入れる予定であり、達成状況が悪ければ、途中で見直すことにしている。
11	「地域防災組織の連携の強化」とあるが、アパートに住んでいる人たちを防災会に呼び込まないと真の連携はできない。今の防災組織のままで関係機関との連携を強化しても意味がない。	若い単身世帯の問題は、防災だけでなく地域の活性化全般において課題と認識している。昨年は新潟中越地震もあり、区として防災のあり方や災害情報の発信方法等について検討しているが、いまの地域にあった防災組織のあり方や地域の連携についても検討する必要があると考え
12	地域の中に入って考えた内容ではなく、行政だけで考えた内容という印象を受ける。学校の統廃合も小規模校をあわせるだけ、児童館の機能や学童クラブも小学校に入れ子どもを夜に1km以上歩かせるなど。本当に必要なことは何なのかをゼロから考えて欲しい。	施設については、これからの10年間で何が必要なかをゼロベースで考えている。子どもの数とか区民の需要を的確に把握し見直していきたい。学校の再編は、小規模校をなくしよりよい教育環境、人とのつながりのもとで教育を受けさせたいというものである。児童館の対象年齢は0～18歳までだが、現状は施設も狭いため小学生の利用がほとんどである。学校には広い校庭と体育館があり、自由に遊ぶことができる。同様のことを行っている江戸川区でも、地域で子どもを見守るという環境ができています。学童クラブを学校に入れることについても、校外の児童館に行くよりも安全という保護者の意見もある。既存の児童館を
13	ごみ減量の取り組みが、10年間で半減となっているが、ずいぶん控えめな数字ではないか。	実現可能な数字ということで半減としている。
14	元気でねっとの充実があげられているが、はじめてから現在までの協力会員の数はあまりにも少ない。町会でやりたいと言ったら、個人でないと駄目だといわれた。もっと柔軟に考えてもいいのではないか。	登録者が約千人で協力会員が60人程度というのが現状である。これまで厳格に運営してきたが、柔軟性を持たせたほうがいいというのはそのとおり。現在町会連合会とも話し合いを進めている。
15	区民健診結果の異常所見なし22.3%というのは、少なすぎるのではないか。対策を考えるべきではないか。	異常所見があるからといってすぐに病気だということではなく、数字は全国的に見て特別高いということもない。異常所見なしという人の割合を増やせるよう頑
16	安心して暮らすということでは、住宅施策が大きいのではないか。施設に関しては述べられているが、在宅型のものをもう少し出せないか。	住宅については、第 領域で取り上げている。まちづくりの体系の中でまとめた。在宅型の施設といえば、小規模多機能施設もそれに含まれる。
17	西武新宿線は地下化を考えているということだが、高架化についても含めて考えてほしい。	土地の買収や騒音のことを考えると、地下化のほうが適していると考えている。
18	計画化したことが、実施した結果、うまくいかないということもあると思う。その場合は、どうするのか。	計画は前期5年と後期5年に分けて進めている。後期5年については、前期の結果を見直して、作っていく。

19	職員定数を削減するというと、職員のモチベーションが下がってしまうのではないか。職員がプライドを持って仕事ができるようにしてほしい。	削減の方法は退職者を補充しないということになるが、職員のモチベーションを高める取り組みは現在でも進めている。
20	現在の備蓄物資は、学校の空き教室の不便なところに置いてある傾向がある。いざという時に不便である。	学校は、子ども達の教育を一義的に考えていかなければならない。災害時を想定し、場所を工夫することも必要であるが、ある程度の不便は仕方がないことで
21	取り組みの中に「集団回収の推進」とあったり、第 領域では「町会や自治会は 公共・公益活動に主体的に取り組んでいる」とあるが、今まで区は町会を利用してきただけではないか。	地域のみなさんが心豊かに支えあうことで課題を解決していくという点では、町会・自治会と区との考える方向が一致しているのではないか。
22	中野駅周辺では、商店は、自ら自転車駐車を確保すべき。また、車の駐車を確保する必要もある。	中野駅周辺に駐車場が少ないのは確か。全体の機能に応じた収容能力も計画の中で考えていく。自転車についても、地域によっては空き店舗を活用したりもしている。ご意見を参考にさせていただいた
23	西武線の踏切の、朝の遮断状況はひどい。事故があつてからでは遅い。早急に対策を。	現在、区民のみなさんと西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟をつくって推進に努めているところ。今後も取り組みを進
24	災害のとき、公園に仮設住宅を設けて占拠するのはふさわしくないという説も聞いた。それなら、再編する学校の跡地を防災用に確保できないか。	現在、地域防災計画に基づき、19か所の公園を仮設住宅の用地に指定している。学校は避難所として位置づけているが、再編後の跡地についてどうしていくかを、防災の観点からも検討していると
25	家が壊れないように補強すれば、災害のときに仮設住宅は必要なくなるはず。各自の備蓄（食糧3日分）も徹底すべき。	災害時には自助・共助が大切。行政にできることは限られている。それぞれの備えも大切である。ただ、一人で行なえない方には行政の支援が必要である。昨年4月からは、耐震診断・耐震補強助成制度
26	地球温暖化を食い止めるために、中野区民ができる取り組みを進めるために「環境カレッジ」を創設すべきである。これまで何度も提案してきたが、どう検討しているか。	講座や学習を通じて市民の関心を高め、省エネルギーの取り組みを進める必要がある。そのため、環境リサイクルプラザでの初期・中期・地域展開を見据えた学習体系をつくっているが、まだ十分に進んでいないのは確か。今後の課題とさせ
27	財政が逼迫している状況の中では、大幅な見直しを行った上で特定事業には重点的に経費を使っていくという発想が必要である。そうでなければ、机上のプランになってしまう。	ご指摘のとおりである。各領域ごとの主要な取り組みについては、重点的に取り組んでいきたい。財政改革を行いながら、10か年計画の中で全体の事業費をしっかりと積算していきたい。
28	小さな区役所、少子高齢化の課題については、組織を超えて横断的に総合的に検討してほしい。	ご意見のとおりであり、そのとおり考えていきたい。
29	高齢者会館が民営化になると、運営がNPOになるかもしれない。NPOにも様々なものがある。十分精査してほしい。また、高齢者との意見交換をしてほしい。	ご指摘の点については、留意していきたい。
30	主要な取り組みの中の電子区役所の推進の説明文に、インターネットから施設予約ができることあるが、もう既にほとんどの自治体では実施している内容なので、削除した方がよい。	インターネット施設予約は、施設配置計画に関係していることなので、少し遅れている。表現方法については、工夫していきたい。

31	親子で集える公園づくり等、区民が公園の使い方の提案を受け入れられるしくみを考えてほしい。	区民の意見を伺いながら親しみのある公園を整備していきたい。
32	地域通貨を有効に活用している地域もある。中野区も地域通貨のしくみを考えたかどうか。	庁内でも検討を行っている。具体的な事業計画には至っていない。
33	外国人が日本で暮らすルールや、モラルを学ぶ1週間程度の講習を設けることを考えてはどうか。	日本で暮らすルールを伝えることは、大切なことである。講習は現実的に難しいが、外国人向けの生活ガイドブックの発行するなど、誰もが住みやすいまちづくりをめざしていきたい。

施設配置について 〔小・中学校〕

番号	質問・意見	回答
1	学校の統廃合は財政が厳しいからやるのではないということをもっとはっきりと説明するべきだ。	しっかり説明していきたい。
2	再編後の桃三小は、桃丘小や仲町小と統合するが学級数はどうなるのか。児童館の遊び場機能や学童クラブを入れる余裕があるのか。	桃三小は、平成22年度の推計値で児童約500人、16学級の見込である。区は、小学校に児童館機能や学童クラブを導入する方針のもとに、今後具体的な計画を策定していく。現在、区長部局と教育委員会で調整を進めている。ただし、学校の施設状況により、校舎改築にあわせた導入となるなど、10か年計画で全ての学校に整備できるとは限らない。
3	富士見中学校が統廃合により、廃校になった場合、避難所機能はどうなるのか。地域では心配している。	学校統廃合により、廃校になる場合でも、その後の利用方法によっては、そのまま避難所として使える場合もある。避難所の割り振りは、町会を単位に組み立てられているのでそのことも勘案して検討して

〔子ども施設〕

	質問・意見	回答
1	10年後の姿で、「地域の中で遊びや学習、世代間交流などを通じてさまざまな体験をする」とあるが、近くの児童館は、広場がない。近くの小学校の校庭を使えるようにしてほしい。	まちの中に安心して遊べる場所があるとよい。区では、小学生の遊び場の機能を小学校に移して行くことを提案している。
2	1月14日の朝日新聞に子どもの安全について出ていた。学校を統廃合することによって、学校の中が過密になる、そこに学童クラブや児童館が入ることで、安全が保てなくなるといったことはないのか。	今でも学校内に学童クラブを設置しているところはある。そこでは事故もなく運営できている。必要なスペースはきちんと確保していく。
3	児童館を特色のあるものに変えたいといっているが、乳幼児親子はどこに行けばいいのか。	小型の児童館がいくつもあって、どこでも同じことをやるのではなく、数は減らしても、特色のある児童館を整備していきたい。乳幼児については今後整備する(仮称)総合公共サービスセンターの中でも相談や交流事業を展開していく。

4	地域の健全育成事業は、町会、子ども会などの活動が弱まり、今は児童館が担っている。地域に児童館があるから、まちの支援が得られる。児童館が再編されると、まちとの距離が出て、さらに支援活動が減ってしまうのではないかと、児童館が減ることを憂慮する。	児童館によっては、保護者・地域・学校との連携がとれている所があるが、区全体としてはまだまだ連携が不十分である。地域の育成者を養成する機能も児童館の役割としてあり、これらを総合的に行うため、子どもの健全育成を支援する体制を再構築する必要がある。児童館が単体で果たす役割には限界がある。(仮称)総合公共サービスセンター内の子育て部門で、学校や幼稚園、保育園などの関係機関や地域活動団体と連携をとりな
---	--	---

〔(仮称)区民活動センター〕

番号	質問・意見	回答
1	区民ワークショップに参加したが、そこでは実現可能なことを議論してきた。10か年計画をみると、お金がないということで事業が削られる一方という印象を受ける。	お金がないから何もしないということではない。子育てについても、子どもショートステイや産後支援ヘルパー派遣など新しい事業も入っている。これまでのサービスを同じように提供できないのはそのとおりだが、限られた財源をどのように配分するかが大事なことと考えて
2	地域センターを(仮称)区民活動センターに移行すれば、国保の減免など他人に知られたくないような事務も委託するのか。	窓口で行う行政事務については、5か所に集約することを考えているが、これは委託せずに区が直接実施する。
3	地域センターが減って5か所になれば、1センターあたりの地域の範囲が広がる。町会等の運営で地域センターの職員の貢献は大きく、減ったらどうなってしまうのかという心配がある。	今の地域センターが(仮称)区民活動センターになり、15の数は変わらない。活動支援のための人を雇う経費も運営経費に入れるので、心配がないように対応したい。また、4つのブロックには、支援や連携、調整を図る職員も配置する。
4	地域センターが自主管理になると、区民にとってサービスの低下になるのではないかと。不安である。	現在の地域センターを評価していただけるのはありがたいが、一方で、団体ができないことをセンターに頼むというのでは、課題が増えていくと対応できなくなってしまう。地域には活動力のある方が多い。お互いにつながっていければ、もっと地域の力を生かすことができる。さまざまな工夫・協力をして発展できる
5	今までの地域活動は、地域センターの職員に支えられてやってきた。地域センターがどう変わるのか不安。職員を減らすなら区役所本庁をなくして対応すべき。	地域センターは、活動の拠点となる(仮称)区民活動センターとして、区民が主体的に参加できる運営にしていく。その際、必要な固有職員や地域活動のコーディネーターを運営委員会として確保できるようにする。一方で、窓口機能は集約化して効率化を図る考えである。
6	運営委員会は地域団体がまとまって作ると思うが、団体の利害が異なるのでうまくまとまらないのではないかと。	運営委員会が区民活動センターを運営していくが、事務局職員やコーディネーターも確保できるようにしていく。運営委員会については、準備期間を設けて個々のセンターごとにまちの方々と相談させていただきながら進めたい。
7	地域センターの施設運営に区民、利用者の意見が反映できるようなしくみを考えてほしい。	地域の団体の代表者等で構成される(仮称)運営委員会による区民の自主的な施設運営を考えている。

8	高齢者とのつきあいが多いが、高齢者は地域センターで住民票等の手続きができなくなることなどを心配している。今は地域センターに来れば職員が親切に対応してくれるが、4ブロックになると遠くて行けなくなってしまう。機械での交付も怖いと言ってい	窓口業務の集約を考えている。住民票などについてはコンビニでの受け渡しを行うなど効率性とあわせて利便性も考えている。自動交付機による交付は考えていない。
---	--	---

〔保育園・幼稚園〕

	質問・意見	回答
1	幼稚園と保育園の保育料の一元化等があげられているが、幼稚園はどうなるのか。	幼稚園については教育委員会で検討している。幼稚園の数については、区の施設全体との調整もあるので、現段階では言えない。10か年計画の中で示していき
2	保育園と幼稚園の一元化は、保育園に通っている子がそこから幼稚園に行き、カリキュラムが終わったらまた保育園に戻れるようにすればよい。	保育園は現在、親が働いていないと入れない。一方、幼稚園は長時間預かれない。そうした区分をなくし、保護者の判断で施設を選べる、また、費用負担も同額にする、ということを考えている。具体的にどうなるのかは、現時点では示せないが、幼児期の保育の充実を図ってい

〔高齢者会館〕

番号	質問・意見	回答
1	高齢者会館の再編とあるが、高齢者にとっては今の場所だからいけるといことがある。	現在の高齢者会館には、狭いところやバリアフリー化ができていないところがある。地域的にも偏在している。そうした点を勘案して、配置や運営を見直してい

〔（仮称）総合公共サービスセンター〕

番号	質問・意見	回答
1	（仮称）総合公共サービスセンターについては、早く作ってほしい、実際にできれば新たな取り組みも生まれてくるのではない	学校施設を使うことなので、計画を前倒しするのは難しい。

その他

番号	質問・意見	回答
1	鍋横地域は、区内でも有数の密集地域である。防災上の耐震診断などは、重点地域を定めて行政が立ち入って取り組んで欲しい。	行政として、これまで待ちの姿勢が多かったと反省している。区が積極的に立ち入ってローラー作戦を展開するなどの姿勢が必要と考えている。
2	3月下旬にパブコメ意見への回答、2月の区議会に議案提案というのは、順序が逆ではないか。パブコメの回答について再度意見交換を行い、お互いが納得のうえ進めるべきである。	これまで多くの経過を経て策定を進めてきており、今回は最終の意見交換と考えている。
3	ワークショップでどんな意見が出ていたかを一般区民にもきちんと示してほしい。	ワークショップの提案書は、ホームページのほか、冊子にまとめて地域センターでも閲覧していただけるようになっているので、ぜひごらんいただきたい。

4	意見交換会の参加人数が少ない。PRをどう行なったのか。ワークショップや審議会などで熱心に活動してくれた人に感謝するが、それをもっと区民が身近に感じられるようにしたかった。	区報・ポスター・チラシ・ホームページで呼びかけてきた。今回で4回目になるが、そのほかにも町会連合会など個別の団体にもうかがってお話をしてきた。今回は、同時にパブリック・コメントによる意見も募集している。
5	主張するだけでなく、実践し、行動していくことが大切である。区民ワークショップがどのように区民活動センター運営などに関わっていくのか今後の関わりを教えてほ	10か年計画が策定されたら、(仮称)区民活動センターの運営の移行準備の中で地域意見交換会を開催し、具体的な運営方法を考えていきたい。